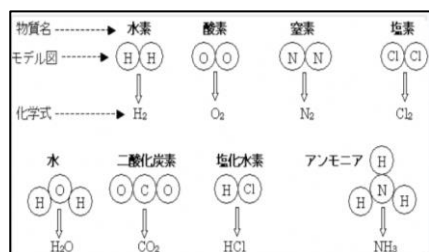
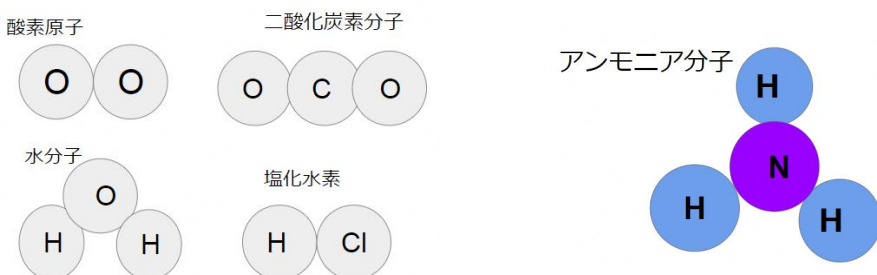


1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	浅口市立寄島中学校	実践者名	宮原 稚世
教科等	理科	学年	第2学年
		端末活用段階 (岡山県版)	Stage 2
育成したい 資質・能力	身の回りの物質、化学変化と原子・分子について理解するとともに、科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深めるようにする。		
単元・内容等	化学変化と原子・分子 2物質を表す式		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	理科の授業では、授業の終わりにタブレットで振り返りを行っている。 ICTを使用する技能が、生徒により異なる。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
【前時まで】 原子を元素記号で表す方法について学習をしている。分子の構造について、水や二酸化炭素等の頻繁に出てくる物質の構造は、教科書を用いて学習を行った。その後、他の物質の分子構造について、調べてスライドにまとめた。 生徒は、教科書で分子構造について学習したのちタブレットを用いて検索をしてまとめている。			
【授業の展開】 (1) 前時の振り返りを行う。 (2) 分子構造について知る。 (3) 水や二酸化炭素の分子の構造と表し方を知る。 (4) 他の物質についてタブレットを用いて調べ、まとめる。（スライド） (5) 本時のまとめと振り返りを行う。（Forms）			
			
			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
タブレットを用いての検索については、生徒自身が興味を持っている物質について調べるなど、探究的な学習に結びついていた。 スライドでのまとめについては、「見やすくまとめる」ことや「必要な情報を選択する」事について、依然課題があることを感じた。		(生徒の振り返りより) 「よく出てくる物質を化学式で表すことができた。」 「化学式で表すのは結構簡単だった。」 「元素記号の右下に数字を小さくつけて示す。」 「原子が一個のときは、右下の数字の1は省略する。」	